

花をのみ待つらん人に山里の

雪間の草の春をみせばや 藤原家隆

田上 早百合

藤原家隆は、鎌倉時代の公卿・歌人です。利休が好んで使った、茶道の詫びの心を表した和歌です。

会津八一（秋艸道人）が、「草（当用漢字）」を「艸」と書いているので、迷わず「艸」を用い、緑の染料を墨に混ぜて、書きました。